

ふりーきっく トップをめざす！ ～地元神戸で育ちVISSEL KOBEトップチームに昇格～

増田清一さん[神の谷FC～ヴィッセルJrユース～ヴィッセルユース～トップチーム]昇格内定！



Jリーグが開幕しサッカーブームまったただ中だった1993年当時、幼稚園だった増田君が入団した地域少年チーム・神の谷FCの松村コーチは「小学生時代は、MFとして局面を打開できるプレーヤー」と賞賛し、「Jリーグでの活躍、そして出場できるように応援しています！」と地元で育ち、ホームチーム・ヴィッセルで大きく成長した増田君の、Jリーグでの活躍に期待をよせています。ヴィッセルユースから来年の契約が内定した「爽やかな笑顔」が印象的な「ますだきよかず」さんに直接コメントをよせて頂きました。

「小学校は神の谷FC、中学・高校はヴィッセルの下部組織と、昔からずっと地元神戸でサッカーをしてきたので、地元のプロチームである『ヴィッセル神戸』の一員になれることをとても嬉しく、また誇りに思っています。これからプロとしてサッカーをやっていくなかで、

今までお世話になった方への感謝を忘れず、またその人達への期待にこたえられるように頑張っていきたいと思っています。そしてJリーグの試合に出場して活躍することがお世話になった人への一番の恩返しであり、自分の夢でもあるので早く実現したいです。今回ユースから四人(DF増田くん・FW木下くん・DF柳川くんGK紀氏くん)が昇格となりましたが、四人昇格させて下さった方々の期待を裏切らないためにも結果を残していきたいと考えています。そして、僕達の結果次第でユースから昇格する人数も変わってくるので、責任を感じつつも、パイオニアとなれるよう頑張っていきたいと思うので、応援よろしくをお願いします。」



元Jリーガーが指導スタッフという、うらやましくも頼もしい環境のヴィッセル神戸で夢のある選手の誕生！・・・これからの活躍を心から応援したい！

(文：藤井さち代)

ろっかー一む 発行が遅くなりまして、誠に申し訳ございません。 広報

広報紙の編集長となってまだ2号目ですが、早速予定していた10月発行に間に合わせる事が出来ず、大幅に遅くなってしまい申し訳ございませんでした。協会員のみなさまを始め、ご協賛いただいているみなさま、原稿をいただいたみなさまに深くお詫言申し上げます。

神戸のサッカーに大きな変化がおきました。LリーグのINACレオネッサが創部4年目にしてL2で優勝し、来期はL1に昇格するという快挙を成し遂げるという嬉しいニュースの次は、ヴィッセル神戸のJ2降格という悲しい出来事が…。関西では、セレッソ大阪、京都パープルサンガがJ2降格を経験しています。災い転じて福となす。悲しむだけでなくひとつのチャンスとして、今年の京都の様に、J1復帰をクラブだけでなく、街ぐるみで支援し、クラブと地域、サポーターがこれを機に、更に一体となれば良いですね。そして、1年でのJ1復帰だけでなく、復帰後の躍進も期待できるヴィッセル神戸にし

ていきたいですね。来年はドイツでのワールドカップ。兵庫県出身の加地選手やヴィッセル神戸の三浦選手が活躍してくれたら嬉しいです。

今回の広報紙は予定通り発行出来るように頑張りたいと思います。

ホームページも小リニューアルを行いました。トップページを少し改訂して、更新情報を見やすくしてみました。これからも速報のホームページ、一覧性の広報紙として、みなさまに情報をお伝えしていきたいと思ひます。

現在、ホームページで広告を募集中です。みなさまのご支援をよろしくお願ひ申し上げます

(文：松下治正)

WEB版神戸のサッカー <http://www.kobe-fa.gr.jp/>

神戸のサッカーと健康をアシストします。

須磨区医師会 サッカークラブ有志

名谷

てい小児科 (小児科・内科・アレルギー科) ☎078-792-5701 須磨区北落合3丁目28-3

益子整形外科 (整形外科) ☎078-797-3131 須磨区白川台6丁目23-2

妙法寺

高石内科クリニック (内科・小児科・循環器科・消化器科・呼吸器科・放射線科) ☎078-741-2052 須磨区妙法寺寺界地92-11

原医院 (内科・小児科・循環器科) ☎078-743-7300 須磨区横尾1丁目9-1

月見山・須磨寺

清本整形外科クリニック (整形外科・リハビリ科・外科) ☎078-732-1213 須磨区天神町4丁目4-35

林産婦人科診療所 (産婦人科) ☎078-731-0730 須磨区行幸町4丁目2-7

村上眼科医院

(眼科) ☎078-731-0056 須磨区月見山本町1丁目5-26

新須磨病院 (各科・スポーツ外来) ☎078-735-0001 須磨区磯馴町4丁目1-6

坂宿

梶川眼科医院 (眼科) ☎078-732-0091 須磨区前池町3丁目4-1

益子産婦人科医院 (産婦人科) ☎078-732-4103 須磨区戎町3丁目5-15

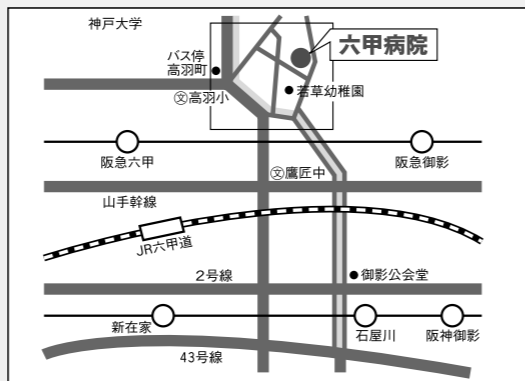
《モットー》 患者さんに優しく易しい病院 国家公務員共済組合連合会

六甲病院

〒657-0022 神戸市灘区土山町5番1号 TEL 078-851-8558 FAX 078-851-3906 <http://kkrorjip/rokkou>

《診療科》 内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・整形外科・リハビリテーション科・緩和ケア(ホスピス)科・眼科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・放射線科・東洋医学科・健康管理センター(人間ドック) スポーツ外来

《六甲病院への交通》 阪神御影・JR六甲道・阪急六甲から神戸市営バス⑩六甲ケーブル下行き。高羽町下車。陸橋渡る。徒歩5分



アジュール兵庫 全国大会進出！

第17回全国レディースサッカー大会関西大会優勝!!



全員の勝利・・・関西1枚の全国キップ

第17回全国レディースサッカー大会関西大会は、9月18日いぶきの森球技場で開催され、決勝で第14回大会全国優勝の兵庫県代表アジュール兵庫が、第15回大会全国優勝の大阪府代表USED FC高槻スペランツァを1-0で破り、連続6回目の全国大会出場を決めた。

全国大会でも関西のレベルは高く、常にベスト4に入っている。前年度優勝枠が一つあった第15、16回大会は関西より2チーム出場できたが、今年は優勝枠もなく厳しい戦いだった。当初はママさんの全国大会で選手の合計年齢が400歳以上の要項で行われたが、第15回より普及と女子選手の増加を目指して、名称も「レディースサッカー」と改め、年齢制限が30歳以上の選手(30歳以下も2名出場可)に変更されました。その変更により、30歳代チームが増え、関西もLリーグ、スペランツァF.C.高槻のOGチーム(USED FC高槻スペランツァ)が参加して全国優勝した(第16回USEDは準優勝、優勝は広島レディース)。

アジュール兵庫は、レディース大会に切り替わった中で、第15回3位、第16回4位と戦えるチーム作りを目指し、3年目にして、USED FC高槻スペランツァに勝った。



アジュール兵庫は、次の全国レディース大会の優勝を目標に頑張っています。8月には神戸で、昨年全国で優勝した広島レディースを1-0で、3位の愛知レディースを2-0で下し、力をつけてきました。選手の努力、熱意はすばらしく、心打たれます。これから本大会まで2ヶ月間、気持ちを引き締めて、怪我のない

ように注意して、11月18日～20日まで、清水のナショナルトレセンで開催される第17回全国レディースサッカー大会でチームの力が十分発揮できるよう頑張りたい。優勝を夢見て、実現に向けて頑張っているアジュール兵庫を応援してください。(浅野監督談)

神戸のサッカー

第19号 2005.11.1 (年3回発行)

発行：神戸市サッカー協会 〒651-0085 神戸市中央区八幡通2丁目1-10 三木記念神戸市スポーツ会館内 TEL (078)232-0753 FAX (078)232-4647 企画・制作：神戸市サッカー協会広報委員会 発行責任者：榎原 徹夫 一部 100円

きっくおふ!

JFAレディース&ガールズサッカーフェスティバル2005 in 兵庫神戸

4種

7月24日(日)しあわせの村運動広場において、「2002FIFAワールドカップ™記念事業」として開催された。市内のサッカー少女210人。未登録の幼児16人。お母さん65名が参加し、ミニサッカー大会、PK合戦と楽しい一日を過ごした。



6年生から2年生まで各学年別に4チームを編成し、おかあさんチームも4チーム編成した。優勝チームには、1人ひとりにメダルが授与され、各チーム優秀選手賞、全員に参加賞もあり、楽しい一日を過ごした。

見事優秀選手に輝いたみさきSC6年生、大村さんは「楽しかった」と笑顔で語ってくれました。また、多井畑FC3年生の母親でキーパーで頑張った吉田さんは、「私でもこれだけ頑張れるのに、娘も頑張ってるの、愛娘にエールを贈っていました。



表彰式には兵庫県サッカー協会の高見専務理事も来場し、子供達、おかあさんの健闘を讃えました。

ぴっちさいど

「晴れの国おかやま国体」兵庫県成年女子準優勝!!

技術

第60回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」(岡山国体)夏季大会のサッカー競技が、9月9日から13日まで岡山県営陸上競技場(桃太郎スタジアム)で行なわれました。

2年ぶりの優勝を目指す兵庫県成年女子(TASAKI)は、決勝で東京都(日テレ)に0-1で敗れ、残念ながら準優勝となりました。

また、成年男子兵庫選抜も準決勝で栃木選抜に0-4で敗れ、3位決定戦でも愛媛(愛媛FC)に0-1で敗れ4位に終わりました。

少年男子兵庫選抜については、1回戦は茨城選抜に2-1で勝ちましたが、2回戦の広島選抜に0-2で敗れました。

第5回全国身体障害者スポーツ大会「輝いて!おかやま国体」のサッカー(知的)は11月5日から9日まで倉敷市で開催されます。

第61回国民体育大会『のじぎく兵庫国体』は来年9月30日から10月10日まで兵庫県で行なわれます。

サッカーは成年男子が神戸市、成年女子が加古川市、少年男子は三木市・淡路市・五色町で行なわれます。



のじぎく兵庫国体のホームページは、
<http://www.habatan2006.jp/>



せんたりんぐ

ヴィッセル神戸 日本クラブユースサッカー選手権U-15 3位入賞!

3種

第20回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会は、8月12日から21日まで、福島県のJヴィレッジで行われ、関西大会で優勝したヴィッセル神戸ジュニアユースは、グループリーグを突破したが、準決勝で浦和レッズに敗れ、惜しくも決勝進出を逃した。

関西大会で優勝し、全国大会まで1ヵ月半の間に、課題であったビルドアップ・DFラインの安定に取り組んだ。また昨年、走り負けていた部分も日々のトレーニング、試合数を多くして改善していった。そして、今大会前に優勝・ベスト4という高い目標をみんなが設定し全国トップレベルとの厳しい戦いをした中で選手たちが非常に成長してくれた。優勝は出来なかったが、3位という事で設定した目標を一応達成できたのではないだろうか。

準決勝では、会場がスタジアムが変わったことや気持ちを入れすぎでから回した選手が多く、今までのDFラインではあり得ないミスで開始早々失点した。すぐに同点に追いついたが、パス・コントロールミスが増え、そこからゴールを奪われる事が多くなってしまった。後半は立て直し、開始早々にゴールを奪いこれからはというときにクリアミスで失点しまい猛攻に水をさした。終盤は狙い通りにサイドからいい攻撃ができチャンスを作ったがゴールを奪えず敗退した。

今大会を経験した事でいろいろな収穫を得ることが出来た。フィジカル面では対等に戦えた事と、ロングフィードの精度が高かった事、攻撃・突破力は全国でも高いレベルに有る事、グループでの守備能力の向上が確認できた。

課題は、プレッシャーを受けながら、動きながらのプレーレベルの低さと、判断の悪さ。また、ドリブルは通用したがパスコントロールのレベルの低さ。オン、オフどちらの選手も準備するタイミングが遅いためボールポゼッション、ビルドアップがうまくいかない点。悪い状況の時に、修正・我慢できないメンタル面や、高いレベルと対した時の守備の基本能力(1対1の対応・ボールウォッチャー・危険察知能力)の低さ。また、体調管理(主力選手の体調不良による攻撃力低下)が上げられる。

大会前に課題としていた点が改善されたかどうかは疑問である。特にビルドアップに関しては、大会前にはある程度出来るようになったと感じていたが、結果は、プレッシャーの前に慌ててしまい、やろうとしていた事ができなかった。守備に関しては、緒戦はばたいていたが徐々に安定し失点も少なかったことで、ある程度はレベルアップしたと思う。(準決勝は崩れたが)

全国のトップレベルと戦い技術判断に差があることが明確になった。中学3年になってからさらにスキルアップさせようとしても格段なアップは見込まれない。特に低い年代からトレーニングしておくことが日本のトップ、世界に飛び立つのに非常に重要と感じた。(当たり前のことを再確認できた)それと同様に、相手との駆け引きも重要。自分の基本のスタイルを持ち、その中で相手の特徴を掴み駆け引きしながら局面での戦いに楽しみながら勝てるようにしてかなければいけないだろう。

(文・ヴィッセル神戸ジュニアユース監督 加島進一)

するーぱす

神戸を想う ～「神戸のサッカーに夢を与え続け活躍し続ける」感動のJリーグ昇格～そして今から!

2005年8月27日Jリーグ戦に先立ち、ヴィッセル神戸10StarsとLリーグのTASAKIによる交流試合が開催された。

ヴィッセル神戸誕生から10周年を記念して当時のスター選手がユニバー競技場に結集。1995年、ホームタウンチーム・ヴィッセル神戸は誕生直後、初練習予定の1月17日にあの震災に遭い、さまざまな荒波を乗り越えてきた。当時、選手の練習場もままならない中、3月には「子ども達に少しでも夢を!」と「ちびっこ交流会」をユニバーサブグラウンドで開催。全選手とふれあい、サッカーができる喜びを少年少女に与えてくれた。そして翌年11月にはチーム一丸となって、見事Jリーグ昇格へと夢を実現させた。

交流試合の結果は、江口倫司氏(現ヴィッセルスクールコーチ)の



2得点で完封勝利。試合終了後、「J」昇格当時のメンバーと一緒に久しぶりにゲームができて楽しかった!と再会を共に喜びあい、多くのサポーターを楽ませた。初代主将の石末龍治氏は現在指導者としてユーズ年代を支え、ミスター神戸・永島昭浩氏はサッカー解説者として幅広く活躍中。「地元神戸で指導した選手がトップで活躍できる選手になり、代表に選ばれる選手に育って欲しいですね」と熱き想いを語って頂きました。

国体トリオとして同年代の和田昌裕氏は現在トップチームコーチのため、この日はホームゲーム直前の交流戦には出場できなかったが、神戸のサッカーを支え夢を与え続けてきた選手のご子息たちもまた、現在小、中学生世代の神戸のサッカー選手として活躍中。

来年は地元開催の「兵庫国体」の年…。トリオ選手として互いに支え合い励ましあってきた石末氏・永島氏・和田氏のように神戸のサッカーに夢を与え続け活躍し続ける…そんな選手誕生の鼓動が少しずつかたちとなっていくことに期待したい!(文責:藤井さち代)



は一ふたいむ

滝川第二高校 高円宮杯全日本ユース(U-18) 第3位の栄冠!

2種

第16回高円宮杯全日本ユース(U-18)選手権大会において滝川第二高校は3位の成績を挙げた。この大会は、クラブチームと高校チームが真の日本一を競うという趣旨で3年前から全国のプリンスリーグを勝ち抜いたチームとインターハイ、クラブユースの上位2チーム計24チームが参加した。

滝川は関西2位の資格で出場した。グループはE、クラブ優勝の読売ヴェルディ、名門市船橋、新進広島観音を相手にどこまでやれるか正直不安の方が強かった。初戦でヴェルディを2-0で破り波に乗り、次の市船橋を6-1で下すと自信となった。

最終の観音戦も結果次第でグループの順位が変わり決勝トーナメントの相手が変わってくるので絶対に気の抜けない試合となった。幸い2-2の引き分けでグループ首位となった。

16チームによる決勝トーナメントの第一戦は、名古屋グランパス。名古屋の上手いパスワークに翻弄されながらも良く耐え、後半勝負の

プランどうり2-0で下しベスト8に進出。準々決勝は静学をPK戦で下した広島観音。お互いこの大会で伸びてきた同士。最後まで集中した滝川は1-0で勝ちベスト4に進んだ。

準決勝は国立競技場で札幌コンサドーレだ。何故かごちない立ち上がりとなりPKによる失点で0-1で前半を折り返す。後半は一人少ない相手に猛攻をしかけ一度は追いつき勝ち越すチャンスもありながら逆にまたもPKを与え1-2で破れ決勝進出はならなかった。

滝川にとっても国立1勝は果たせず次回に夢を託す事になった。



(文:滝川第二高校サッカー部 監督 黒田和生)

きらーぱす

10歳～14歳の少年サッカー指導者に望む、この時期のサッカーの取り組み

サッカーが今日ほど盛んでない時代からサッカーを見てきた者として、神戸の少年サッカーが県内、県外のサッカー先進地域に比べて見劣りする点が気になります。

その一つが身体接触を伴うプレーが甘く、ボディバランス、強さももっと要求されて良いのではと思います。

都会の子供達にありがちな足腰のひ弱さを日々の練習で改善することに取り組みむことが望まれます。

その二は1対1や2対2などの対敵動作に強くなる練習をもっと増やすべきかと考えます。タックル、マークとカバー、相手に対するプレッシャーのかけ方、相手のプレースペースを消すための動きかけなどは、10歳～14歳の頃から意識してプレーさせ、5対5くらいの少人数でのゲーム形式の練習の中で、適切な場面でプレーを中断して効果的なアドバイスを与えながら理解させ、実行させていけば必ず身に付くと思います。

その三はスピードの変化です。フェイントで相手を交わす、スルーパスで相手の背後へ走りこむといったプレーを効果的にやって味方の

有利な状況を作るためには急発進、急ストップ、鋭いターンやスワープで相手との間に自分の有利なスペースや状況を生み出すことが大切です。

神戸市内のサッカーチームの多くは土曜日だけの練習しかできないチームが多いと思われしますので、ゲーム中心の練習になりがちかと思いますが、注意を与えたり効果的なアドバイスを与えるためには、コーチが気付いた時、すぐに笛を吹いてプレーを止め、即座的確かなアドバイスをすることが大切です。

小学生、中学生の年齢でのトレセン指導はこれまで述べたようなことを是非実行して貰いたいと希望します。

トレセンとは個々の選手の技術、個人、グループ戦術を伸ばし、一人ひとりの能力を伸ばすことが本来の目標であるはずなのに、ゲームに費やす時間が多すぎたり、コーチの人たちの中には本当に私が期待している目標をトレセンの目標として活動してくれているかどうか。今一度トレセンの目的を再認識して貰いたいと敢えて苦言を呈する次第です。

(文:神戸市サッカー協会 副会長 一北四郎)

ぴっちさいど

こんなグラウンドがほしかった!

施設

==神戸市西区に協会専用グラウンドを建設中==

2005年、神戸では500を超えるチームが登録され、12,000人強のプレーヤーが、週末を中心にサッカーを楽しんでいます。しかし、ご承知のように、このサッカー人口に比べ、公共のグラウンドは少なく、利用制限もあり、民間企業や他都市のグラウンドまで手配しながら、リーグ戦・各種大会の開催に、関係者が四苦八苦し、結果、チームの皆さんの要望にも十分答えられない状況が続いていました。

このため、今年春から協会をあげて調査に取り組み、その後いろいろな方たちのご協力を得ることが出来、次のとおり、協会の専用グラウンドの建設に着手することとなりました。

2006年新春からの利用開始を目指していますので、ぜひ楽しみにお待ちください。

《施設の概要》

場所:神戸市西区岩岡町岩岡

交通:JR大久保駅から、バス。「岩岡連絡所」下車、徒歩約10分(車)第二神明「大久保IC」から北へ、約5分。

規模:大人コート2面(クレー)105m×68mのフルサイズ。少年グラウンドとして4面。ウォーミングアップ場1面(予定)

「プレーしやすい」「運営しやすい」「応援しやすい」を目指したグラウンド
その他:トイレ棟、管理棟(予定)、更衣室棟(予定)、駐車場約300台

協会では、今後さらに施設のグレードアップを目指し取り組んでいこうと考えています。施設の充実のため、団体・個人を問わず、広く募金等の協力を呼びかけていますので、各委員会の代表者までお申し出くださいようお願いいたします。

なお、神戸市サッカー協会ホームページ《http://www.kobe-fa.gr.jp/》インフォメーションコーナーに詳しく掲載していますので、そちらもご覧ください。

ほいっする

ルール改正について & 2006年度登録用審判講習会・研修会について

審判
規律

【ルール改正について】

8月の新聞のスポーツ欄で目にされた方もおられると思いますが、2005年6月17日付でルール改正が発表されています。紙面の都合で改正文の詳細は、JFAや神戸のサッカーのホームページでご確認いただきたいと思います。オフサイドポジションの定義の明確化、「オフサイドにおける積極的にプレーに関わる」ことの定義づけ、退場となる危険なタックルは後方だけにとどまらないこと、ペナルティキックでの攻撃側競技者の違反への対応、スローインでの離れるべき距離が主な点です。

このうちオフサイドについては、副審の旗の上がるタイミングを遅くする内容でしたが、8月に少し修正がほどこされました。オフサイドポジションの選手がいても、2列目の選手の動きをしっかり確認をしてから旗を上げることになりました。副審に対して“Wait&See”(待て!よく見る!)を要求するものです。

ペナルティキックでの攻撃側競技者の違反への対応では、ワールドカップアジア予選で残念なことに、日本人の主審の適用ミスがありま

した。そのほか、日本サッカー協会から審判員の熱中症対策へ指示として審判員の飲水、チーム指導や連続しての練習試合などでの帽子的着用などの連絡がありました。

【2006年度登録用審判講習会・研修会について】
2006年度の審判登録のための講習会・研修会の開催時期が近づいてきました。

今回からは各人でインターネットを利用したWEB申請をしていただきます。

受付開始については、WEB版“神戸のサッカー”などを通じてお知らせをしますが、申込の締め切りや受講料の納入期限などが、開催日の2~3週間前となりますので、これまでのように当日会場での直接受付はできませんので、十分ご注意ください。

(審判委員会)